

第1回 JASTEC 関西「論文研究会」 まとめ

2011年1月29日(土)

於 常翔学園大阪センター

14:00 開会

14:00-14:30 代表者(植松茂男)からの挨拶及び講師紹介

14:30-16:00 講師講演(立命館大学准教授 赤沢真世さん)

テキスト論文: JASTEC 紀要第26号(2007), pp. 1-13. 『現代アメリカにおける4ブロックス・アプローチの理論と実践』-ホールランゲージとフォニックスの統合を目指して-

16:00-16:10 休憩

16:10-16:55 質疑応答

17:00 閉会

17:15-19:00 講師を囲んで懇親会

第1回 JASTEC 関西「論文研究会」が大阪駅近くの常翔学園大阪センターにて、15名の参加者のもと開催された。

冒頭に30分程、会の世話役を務めて下さっている京都産業大学教授の植松茂男先生より「JASTEC 関西論文研究会」の誕生の経緯、会の趣旨、論文の構成や論文作成にあたってのポイントなどの解説があり大変参考になった。「若い研究者のお手伝いをしたい。」と言う言葉に、心強く思った大学院生が多かったのではないだろうか。

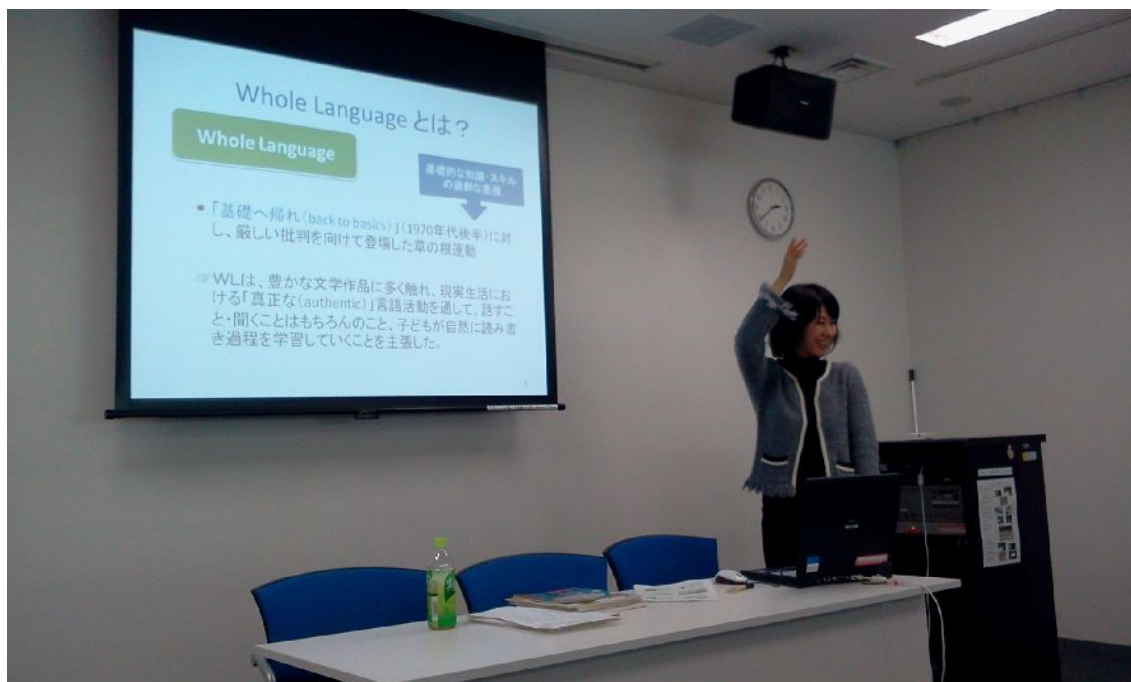
赤沢先生は、4ブロックス・アプローチの理論に入る前段階で、ホール・ランゲージに馴染みのない参加者のために、ホール・ランゲージの理論から丁寧に説明して下さいました。ホール・ランゲージとフォニックスは一般的に相反する対象的なものと捉えられているが、実はホール・ランゲージにはフォニックス的学習も含んでいるとのことで、両者をバランスよく取り入れ生まれたのが4ブロックス・アプローチであるという。四つの各々のブロックを例を用いて詳細に解説して頂いた。今後の日本の英語活動には音素の気付きを高める指導が必要であるとの示唆があった。

講義の後、会場から、もともと第一言語習得の研究方法としてのホール・ランゲージが第二言語習得にあてはまるのかとの質問があった。ESLでもホール・ランゲージが有効との研究があるとの赤沢先生からのお答えがあった。そのほかにも、参加者との活発な質疑応答がおこなわれ、あっという間の短く大変充実した3時間であった。

その後の、インド料理店での懇親会では、赤沢先生が他のホール・ランゲージ研究者と共にホール・ランゲージ研究会を立ち上げたとの情報を得るとともに、研究会場の申し出があるなど、更に活発な情報交換が生まれた。

文責 高田悦子(大阪キリスト教短期大学)

当日の様子（1）講師：赤沢先生



連絡先：植松 茂男（京都産業大学）

uematsu[at]cc.kyoto-su.ac.jp （ [at]変換してください ）